

鴨川市男女共同参画推進審議会 平成25年度 第2回会議

次 第

日時：平成25年10月22日（火）

午後1時30分から

場所：鴨川市役所7階会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 事

(1) 男女共同参画セミナーの開催結果について

(2) その他

4 閉 会

[配布資料]

- ・次第
- ・席次表
- ・出席者名簿
- ・資料10 男女共同参画セミナーの開催結果について
- ・鴨川市男女共同参画推進審議会平成25年度第1回会議 会議録

鴨川市男女共同参画推進審議会 平成 25 年度第 2 回会議 出席者名簿

日時：平成25年10月22日（火）

午後 1 時30分から

場所：市役所 7 階会議室

1 委 員

氏 名	備 考
上村 美智代	副会長
黒川 洋子	
立野 慶子	
角田 佐智子	
永井 佳美	
速水 昭雄	会長

【欠席委員】

氏 名	備 考
齋藤 守彦	
長谷川 裕一	

(アイウエオ順・敬称略)

2 事務局

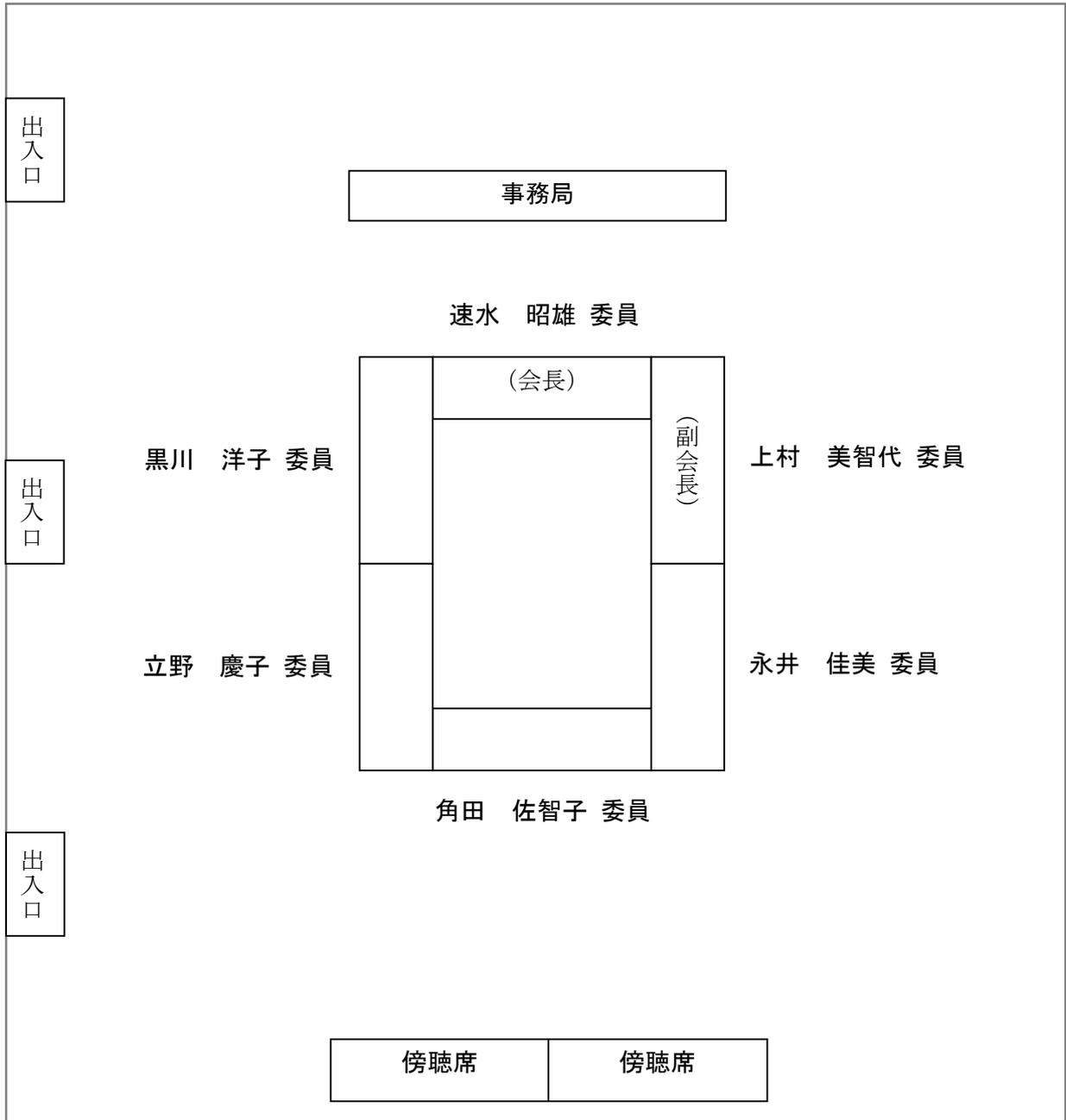
氏 名	所属・職	備 考
杉田 至	鴨川市企画政策課 課長	
藤代 公貴	鴨川市企画政策課 政策推進係 係長	
鈴木 身和子	鴨川市企画政策課 政策推進係 副主査	

鴨川市男女共同参画推進審議会 平成 25 年度 第 2 回会議 席次表

日時：平成 25 年 10 月 22 日(火)

午後 1 時 30 分から

場所：市役所 7 階会議室



男女共同参画セミナーの開催結果について



鴨川市 企画政策課
平成 25 年 10 月

男女共同参画セミナーの開催結果について

1 趣旨

男女共同参画セミナーについては、本市における男女共同参画社会の実現に向け、市民の意識の醸成を図ることを目的として、開催したものである。

なお、本事業については、本市男女共同参画計画上の「焦点事業」のひとつに位置付けられている。

2 主催

- ・ 千葉県男女共同地域推進員（南房総地域）
- ・ 千葉県男女共同参画センター
- ・ 鴨川市

3 日時

平成 25 年 9 月 28 日（土）午後 1 時 30 分から午後 4 時 00 分まで

4 会場

鴨川市役所 4 階大会議室

5 主催者代表あいさつ

- ・ 鴨川市長 長谷川 孝夫
- ・ 千葉県男女共同参画地域推進員南房総地域代表 西宮 幸江氏

6 講演

- ・ テーマ：「男女で考える防災対策」～女性の視点だから気づくこと～
- ・ 講師：危機管理教育研究所代表 国崎 信江氏

7 同時開催

- ・ わが家の防災情報コーナー
（鴨川市消防防災課・安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部予防課）
- ・ 手作り商品即売会
（鴨川市社会福祉協議会・鴨川市福祉作業所）

8 参加者数

105 名（男性 35 名、女性 70 名）

9 添付資料

- ・ セミナー概要
- ・ 参加者アンケート集計結果報告書
- ・ アンケート用紙

セミナー概要

「^{みんな}男女で考える防災対策」～女性の視点だから気づくこと～

○ 鴨川市長あいさつ

我が国では、日本国憲法に基づき、男女平等の実現に向けた様々な取り組みが着実に推進され、平成 11 年 6 月に制定された「男女共同参画社会基本法」により、男女共同参画社会の形成に向けた施策が総合的かつ計画的に推進されている。

本市においても、家庭、地域、学校、職場といったあらゆる場面で、すべての人がともに支え合い、認め合い、市民の皆様一人ひとりが生き活きと活躍できる

男女共同参画社会の実現に向け、平成 22 年 3 月に「鴨川市男女共同参画計画」を策定し、これまで以上に各種施策への取り組みを積極的に推進している。

我が国の国難とも言うべき、未曾有の被害をもたらした東日本大震災の発生から 2 年半余りが経過する中で、震災被害の風化とともに、防災意識の低下が指摘されており、近年、頻発する、これまでに経験したことのない自然災害はもとより、その発生が危惧されている全国各地の直下型地震などに備えるためには、津波対策や減災対策などといった安全で安心なまちづくりは勿論のこと、常日頃からの身近な防災対策や防災意識の啓発についても、市民の皆様生命と財産をお守りする立場にある者として、その重要性や必要性を十分に認識しているところである。

ご多忙を極める中、快く講師をお引き受けいただいた、危機管理教育研究所の国崎信江様には、心から敬意と感謝の意を表すとともに、ご参会の皆様には、本日のセミナーが改めて防災に対する意識の高揚に資する契機となることをご祈念申し上げます。



鴨川市長 長谷川 孝夫

○ 千葉県男女共同参画地域推進員南房総地域代表のあいさつ

千葉県男女共同参画地域推進員は、千葉県知事の委嘱を受け、男女共同参画社会の形成を目指し、地域と行政とのパイプ役として、県民の皆様「男女共同参画」を身近なものとしてご理解いただくため、本日のような講演会などを企画・開催し、各地域で活動している。

本日は、鴨川市との共催により本セミナーを開催することとなり、こうして多くの皆様にお越しいただいたことに本当に感謝している。

○ 講演内容

講師のこれまでの活動から、各地の被災地・避難所で様々な支援を行ってきた中で、女性の視点に立った災害時の実情や対策について、ご講演いただいた。

◇ 女性を取り巻く避難所の現状

避難所で生活していくことは、特に女性にはデリケートな問題が多いため、困難な状況となる場合が多い。

そもそも、それまでどんなにコミュニティのしっかりした地域であったとしても、多くの方は他人と生活した経験はなく、顔見知り程度の人と同じ場所で暮らしていくことで、様々な問題が発生することとなる。

とりわけ女性は、性的な面において、非常に苦痛を覚える場面が多くある。

例えば、避難所に女性の着替える場所がないという話はよく言われているが、大勢の人がいる中では、上着を一枚脱ぐだけでも誰かの視線を感じ、見られているような気がしたり、疲れて横になっている姿を人に見られること、化粧をしていない顔を見られることなどがストレスと感じる。このため、避難所で暮らす女性の間で特に要望が多かったのは、パーテーションの設置であった。

東日本大震災では、それまでの震災の教訓から、パーテーション設置への対応が早かったものの、被災地が広域的で、避難所の数も多かったため、その全てには行き渡らない状況であった。その中で、現地にて活動していた報道機関に対し、女性がパーテーションがないことを訴えたため、全ての避難所にパーテーションを設置する支援が始まった。多くの女性が喜んでいたが、ある避難所では、責任者の男性が、パーテーションを設置すると、これまで築いてきたコミュニティを壊してしまうと、設置を断ってしまった。このことから、女性の間で、男性が女性の意見を聞かず、一方的な判断で決定したことへの不満が生じた。

避難所の運営においては、こうしたトラブル回避のために、男性も女性も共に運営に参画し、互いの課題や要望などを理解し合う必要がある。

また、避難所のプライバシーを保護する観点から、トイレや仮設トイレの男女の区別がなく、男女共用であることに違和感を持った。トイレに関しては、男女を区別し、なおかつ位置を離して設置すべきである。さらに、女性の下着を干す場所がなかったり、女性用品を男性が配布するなど、女性にとってストレスを感じる状況が多い。男女で共用するのではなく区別すべきものについては、あらかじめ避難所運営の項目として検討・決定しておく必要



講師 国崎 信江氏

がある。

避難所運営への女性の参画は、女性が平時から防災に関わっている状況があつてこそ、災害時においても実行していくことができると考える。



講演風景

◇ 避難所で実際に発生したトラブルや事件

- ・女性が、避難所を運営する男性に避難所内で痴漢行為があつたことを報告したところ、痴漢をした男性も震災で辛い状況にあるため、大目に見るように言われたことで、女性は痴漢をした男性だけでなく、避難所を運営する男性にも不信感を持つようになり、その避難所を出て行くこととなった。

- ・更年期障害を患う女性が、避難所の仕事を手伝えないことを詫びたところ、同じ避難所の男性に嫌味を言われたこと

で、自分が手伝えないことに責任を感じてしまったため、避難所を出て車で寝泊りすることとなった。

- ・避難所内で個々のグループやコミュニティが確立されていると、仲間意識が強くなり、その避難所に後から加わることは難しいため、結果として、避難所を転々とする人が多かった。

- ・避難所内での女性や子どもへの性的被害が多く、防犯ブザーを配布すると長蛇の列ができた。また、極限の状態となった人にとっては、年齢や性別は関係がないため、男性や高齢者であっても性的被害を受ける可能性がある。

- ・子どもの連れ去りを行う国際的な集団が存在する。東日本大震災でも、子どもの連れ去りに関して、被災地で注意が呼びかけられていた。地震や津波の被害だけではなく、こうした災害時の防犯についても目を向けてもらいたい。

◇ 災害時における女性への配慮

災害発生後の、妊婦を取り巻く生活環境はそれまで以上に困難な状況となる。

一例としては、妊婦が、水を運ぶため、自宅マンションの5階まで、毎日何往復もしていたとか、陣痛が始まってしまったが、交通手段がなく、病院まで6時間も歩いたなど、大変に辛い経験をしている。

自分は災害によって怪我をした訳ではないと考え、どうしても周囲に助けを求めることができなかつたと話していたが、母子共に安全に出産をしてももらうためには、日頃から、皆で妊婦を守るという意識を持つとともに、災害時においては、さらなる配慮をしてもらいたい。

また、職場での防災対策としては、災害が発生して職場に避難する状況と

なった際には、会社のセキュリティが機能しない場合など、外部から不審者が侵入しやすいことを考慮し、女性の着替えや寝るための場所は、施錠可能な部屋にするか、パーテーションを設置する必要がある。

さらには、トイレ内で異常があった時のために、非常照明・非常用ブザーを設置すること、それらの用意ができなければ、代わりとして笛や防犯ブザーだけでも備え付けてもらいたい。

◇ 地震発生による自宅での被害想定

阪神淡路大震災では、全体の8割の人が自宅で亡くなっているが、そのうち、9割の人が地震発生から20分以内に亡くなっている。このため、生き延びるためには、まずはご自身の家の耐震化を検討してもらいたい。

次に、室内の家具がどう動くかという点、倒れたり、飛んでくることを理解している人は多いが、家具は走り滑るということも認識してもらいたい。固定されていない家具は、地震の揺れが大きくなると4秒程で動き始めるため、揺れが大きくなってからではなく、揺れが小さな段階で、その場から離れる必要がある。地域の防災訓練に参加することだけではなく、日頃から、家庭の中でも、防災に対する意識を持つことが重要である。

地震の揺れが落ち着いたら何を行うか。火元の確認や玄関の戸を開けるなどの回答が多いが、自分自身が怪我をしているかもしれないことを考慮しなければならない。そのために、一般的な医薬品に加えて止血の器具を用意しておき、手当ての知識を持つことも必要である。

◇ すぐに実践できる防災対策

家庭内で行う対策としては、① 陶器類の食器を置かない、② 食器の下には滑り止めシートを敷く、③ 壁には絵は飾らず、ウォールシートを貼る、④ 上部収納には、揺れで扉が開かないようストッパーを付ける、⑤ 照明の素材はシリコンや和紙の物を選ぶ、⑥ 小物類の素材もガラスや木でなく革や紙などの柔らかい物を選ぶことなど、日常生活の些細なところから、見直していく必要がある。

倒れてくる家具から自分の身を守り、なおかつそこからの脱出が可能となる体勢として、両手で覆うように頭を抱えて体を丸めて床に伏せる、ダンゴムシのポーズが最適である。

また、家庭での備蓄については、3日分では足りないため、ぜひ1週間分は用意してもらいたい。カセットコンロを用意しておいて、非常食ではなく、平時と同じ食事を摂れるよう備えておく。食材を使ったら買い足すことを続けて実践してもらいたい。

【同時開催：『わが家の防災情報コーナー』・『手作り商品即売会』】



会場内に開設した鴨川市消防防災課による『わが家の防災情報コーナー』では、お客様に「千葉県防災ポータルサイト」上でお住まいの地域などの津波の浸水予測図をモニターでご覧いただきました。その他、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部予防課のご協力により、各種パンフレットや耐震グッズをご紹介します。



1階ロビーで行われた鴨川市社会福祉協議会及び鴨川市福祉作業所による『手作り商品即売会』では、鴨川産夏みかんで作られたジャムやポン酢などの手作り加工食品を販売し、講演を聴講された数多くのお客様が購入してくださいました。

参加者アンケート集計結果報告書

1 調査の目的

男女共同参画社会の実現を目指す本市において、セミナーに参加された皆様の意識の現状をよりの確に把握すべく、本アンケート調査を実施した。

2 調査の概要

- (1) 調査日：平成 25 年 9 月 28 日
- (2) 対象者：男女共同参画セミナー参加者 105 名
- (3) 回収数：n（全体数）＝98 名（回収率：93.3%）
- (4) 調査方法：講演終了後に会場にて回収

3 調査項目

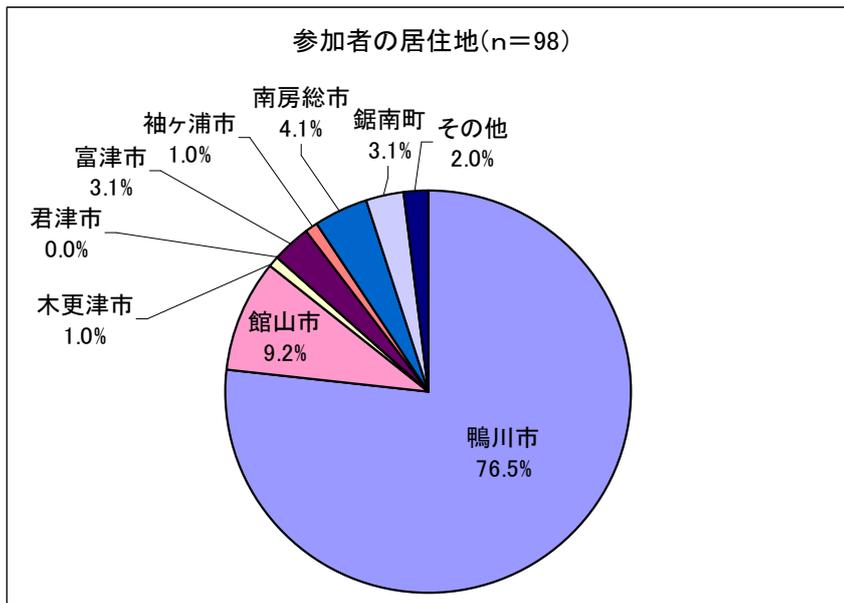
居住地、性別、年代、職業、開催情報の取得先、評価、女性の視点で取り組むべき防災・災害対策、男女共同参画に関する言葉の認知度、今後のセミナーで取り上げてほしいテーマ、千葉県男女共同参画地域推進員の認知度、自由意見

4 集計結果

(Q1)居住地[択一 n=98]

回答者の居住地は、開催地である鴨川市が最も多く 76.5%、ついで館山市が 9.2%、南房総市が 4.1%となっている。

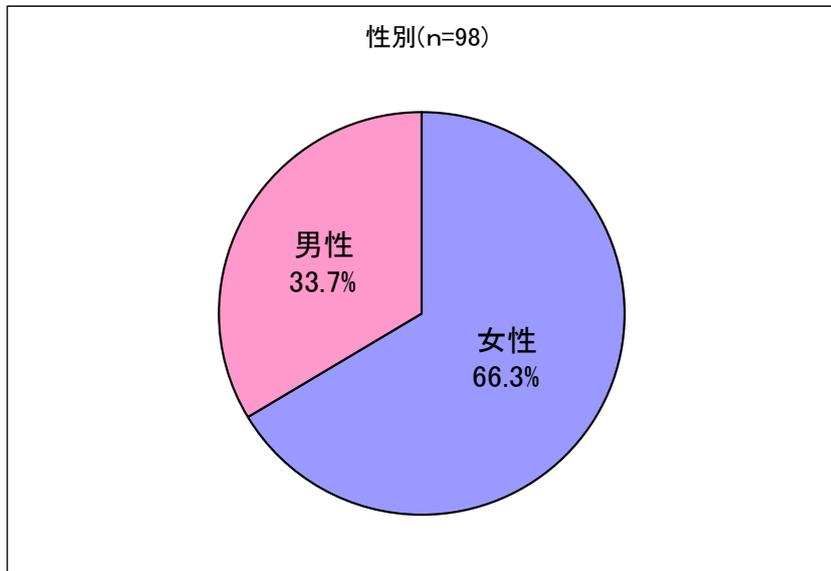
- 鴨川市 75 件 (76.5%)
- 館山市 9 件 (9.2%)
- 木更津市 1 件 (1.0%)
- 君津市 0 件 (0.0%)
- 富津市 3 件 (3.1%)
- 袖ヶ浦市 1 件 (1.0%)
- 南房総市 4 件 (4.1%)
- 鋸南町 3 件 (3.1%)
- その他 2 件 (2.0%)



(Q2)性別[択一 n=98]

回答者の性別は、女性 66.3%、男性 33.7%となっている。

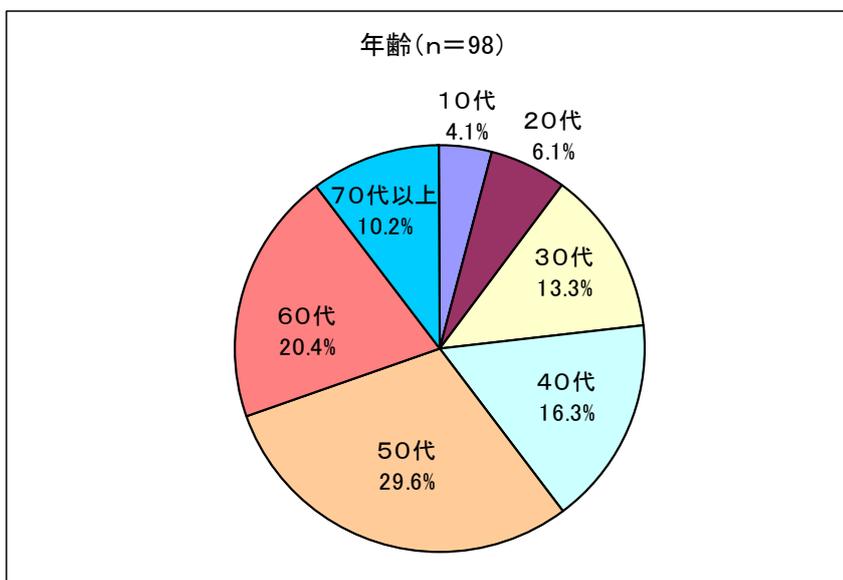
- 女性 65件 (66.3%)
- 男性 33件 (33.7%)



(Q3)年代[択一 n=98]

回答者の年代は、50代が最も多く 29.6%、ついで 60代が 20.4%、40代が 16.3%となっている。10代・20代は5%前後と少ない。

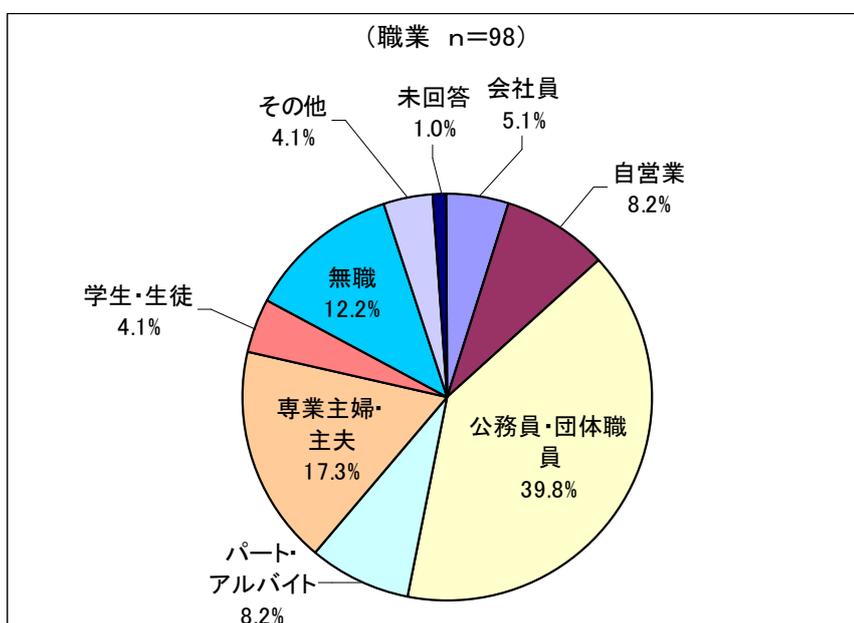
- 10代 4件 (4.1%)
- 20代 6件 (6.1%)
- 30代 13件 (13.3%)
- 40代 16件 (16.3%)
- 50代 29件 (29.6%)
- 60代 20件 (20.4%)
- 70代以上 10件 (10.2%)



(Q4)職業[択一 n=98]

回答者の職業は、「公務員・団体職員」が最も多く 39.8%、ついで「専業主婦・主夫」が 17.3%、「無職」が 12.2%となっている。

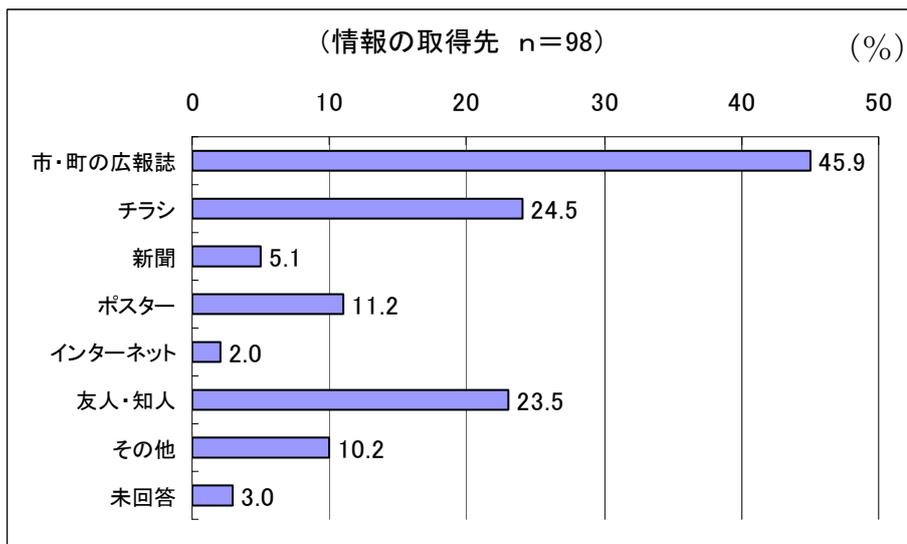
○ 会社員	5 件	(5.1%)
○ 自営業	8 件	(8.2%)
○ 公務員・団体職員	39 件	(39.8%)
○ パート・アルバイト	8 件	(8.2%)
○ 専業主婦・主夫	17 件	(17.3%)
○ 学生・生徒	4 件	(4.1%)
○ 無職	12 件	(12.2%)
○ その他	4 件	(4.1%)
○ 未回答	1 件	(1.0%)



(Q5)セミナーの開催情報の取得先[複数選択 n=98]

回答者のセミナー開催情報の取得先は、「市・町の広報誌」が 45.9%を占めている。以下、「チラシ」が 24.5%、「友人・知人」が 23.5%となっている。

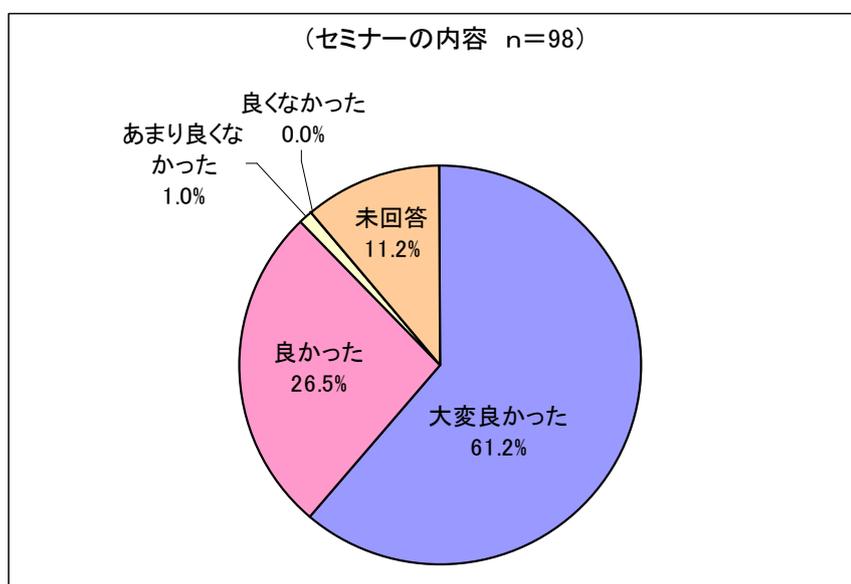
○ 市・町の広報誌	45 件	(45.9%)
○ チラシ	24 件	(24.5%)
○ 新聞	5 件	(5.1%)
○ ポスター	11 件	(11.2%)
○ インターネット	2 件	(2.0%)
○ 友人・知人	23 件	(23.5%)
○ その他	10 件	(10.2%)
○ 未回答	3 件	(3.0%)



(Q6) セミナーの評価 [択一 n=98]

回答者のセミナーに対する評価は、「大変良かった」と「良かった」を合わせて 87.7%と、高評価となっている。

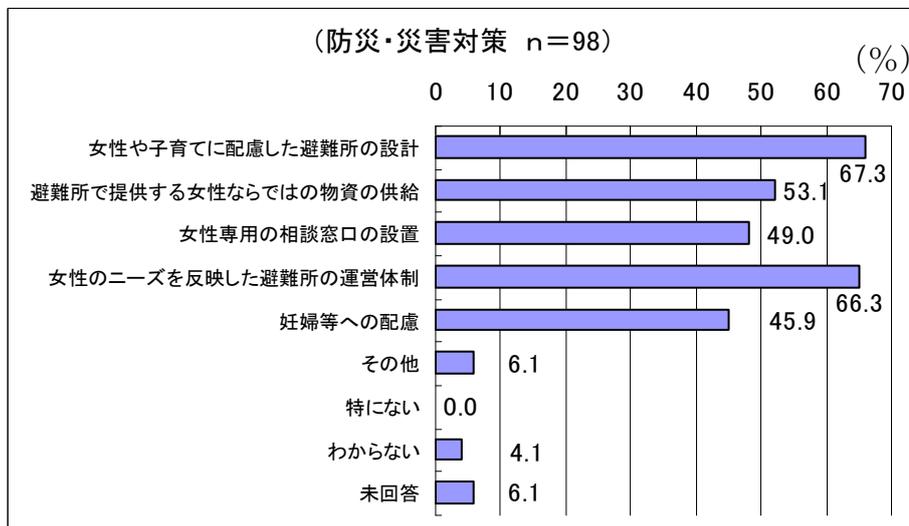
- 大変良かった 60件 (61.2%)
- 良かった 26件 (26.5%)
- あまり良くなかった 1件 (1.0%)
- 良くなかった 0件 (0.0%)
- 未回答 11件 (11.2%)



(Q7) 女性の視点で取り組むべき防災・災害対策〔複数選択 n=98〕

防災・災害対策で、女性の視点に配慮して取り組む必要があることとしては、「女性や子育てに配慮した避難所の設計」と「女性のニーズを反映した避難所の運営体制」の2つが6割以上と多く、ついで、「避難所で提供する女性ならではの物資の供給」が約5割で続いている。

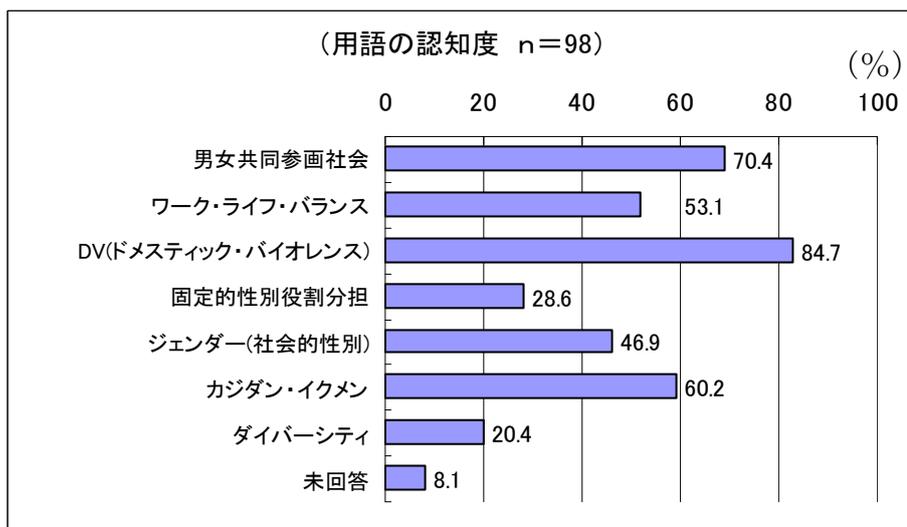
○ 女性や子育てに配慮した避難所の設計	66件	(67.3%)
○ 避難所で提供する女性ならではの物資の供給	52件	(53.1%)
○ 女性専用の相談窓口の設置	48件	(49.0%)
○ 女性のニーズを反映した避難所の運営体制	65件	(66.3%)
○ 妊婦等への配慮	45件	(45.9%)
○ その他	6件	(6.1%)
○ 特にない	0件	(0.0%)
○ わからない	4件	(4.1%)
○ 未回答	6件	(6.1%)



(Q8) 男女共同参画に関する言葉の認知度〔複数選択 n=98〕

男女共同参画に関する言葉について、「DV（ドメスティック・バイオレンス）」を知っていると答えた人が84.7%と最も多く、ついで、「男女共同参画社会」を知っていると答えた人が70.4%となっている。

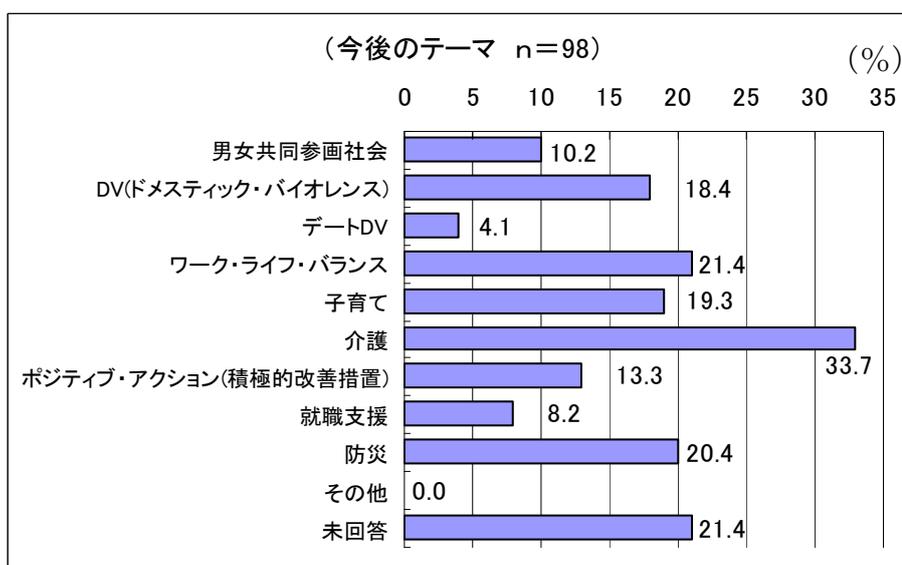
○ 男女共同参画社会	69件	(70.4%)
○ ワーク・ライフ・バランス	52件	(53.1%)
○ DV（ドメスティック・バイオレンス）	83件	(84.7%)
○ 固定的性別役割分担	28件	(28.6%)
○ ジェンダー（社会的性別）	46件	(46.9%)
○ カジダン・イクメン	59件	(60.2%)
○ ダイバーシティ	20件	(20.4%)
○ 未回答	8件	(8.1%)



(Q9) 今後のセミナーで取り上げてほしいテーマ〔複数選択 n=98〕

今後、セミナーを実施した場合に、取り上げてほしいテーマとしては、「介護」が最も多く 33.7%、ついで、「ワーク・ライフ・バランス」が 21.4%、「防災」が 20.4%となっている。

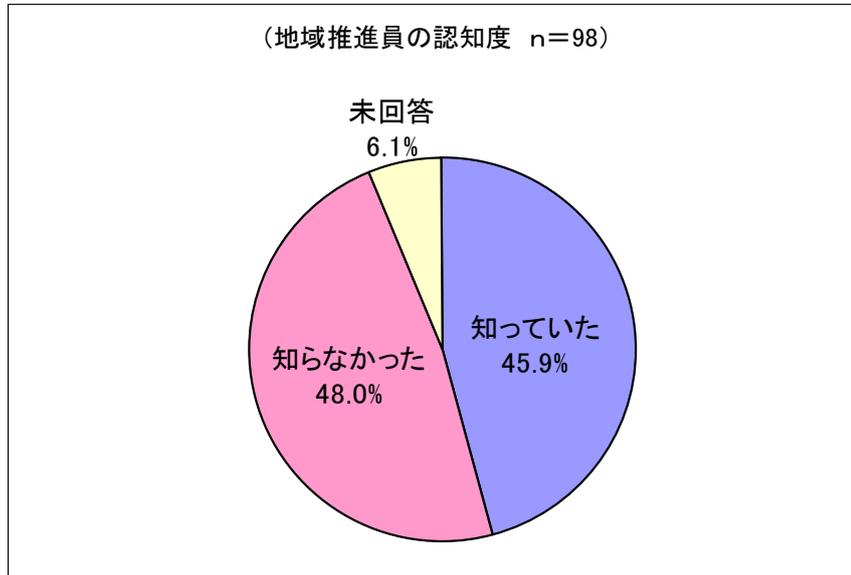
<input type="radio"/> 男女共同参画社会	10 件	(10.2%)
<input type="radio"/> DV (ドメスティック・バイオレンス)	18 件	(18.4%)
<input type="radio"/> デートDV	4 件	(4.1%)
<input type="radio"/> ワーク・ライフ・バランス	21 件	(21.4%)
<input type="radio"/> 子育て	19 件	(19.3%)
<input type="radio"/> 介護	33 件	(33.7%)
<input type="radio"/> ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	13 件	(13.3%)
<input type="radio"/> 就職支援	8 件	(8.2%)
<input type="radio"/> 防災	20 件	(20.4%)
<input type="radio"/> その他	0 件	(0.0%)
<input type="radio"/> 未回答	21 件	(21.4%)



(Q10)千葉県男女共同参画地域推進員の認知度[択一 n=98]

千葉県男女共同参画地域推進員については、「知っていた」が45.9%、「知らなかった」が48.0%となっている。

- 知っていた 45件 (45.9%)
- 知らなかった 47件 (48.0%)
- 未回答 6件 (6.1%)



(Q11)自由意見(一部)

- 避難所だからといって安心できないということが分かりました。(鴨川市 10代女性 学生)
- 体験したことがないので、避難所の実情を少しでも知れたことが良かったです。それと同時に、改めて災害の恐ろしさを感じました。(鴨川市 20代女性 公務員・団体職員)
- 避難所に行けば、なんとかなると思っていたが、なるべく行かずに済む方がよく、そのためには何をすべきかなど、勉強になりました。(鴨川市 20代女性 専業主婦)
- 「日本は安全だ」という思い込みから、被災地であっても、犯罪という点からは安全だと思っていましたが、考えを改めることができて良かったです。物資や相談などは、やはり女性に対しては女性に対応すべきと思いました。(鴨川市 30代女性 公務員・団体職員)
- 家庭での備蓄を1週間分は用意したいと思いました。なるべく自宅で過ごせるようにしたいと考えています。(鴨川市 30代女性 パート・アルバイト)
- テレビや新聞等の情報では知り得なかった現地の声や知識が得られて、非常に良かったと思います。(鴨川市 40代女性 パート・アルバイト)
- 被災地の現実を知って、ためになり、また恐ろしくもなりましたが、自分の家をどうしたらよいか、具体的に分かり良かったです。(鴨川市 40代女性 公務員・団体職員)
- 避難所の話はショックでした。プライバシーが守られないストレスは理

解していましたが、性犯罪や誘拐があるとは知りませんでした。自分を守るため、避難所に行かなくてもいいように、自分で対策を行わなければならないのだと痛感しました。(鴨川市 40 代女性 専業主婦)

○ とても分かりやすく、ためになるお話でした。女性ならではの視点はすばらしい。我が家でも、今日のセミナーを参考に防災対策を家族で考えていきたいと思います。また、鴨川市でも考えていただきたいと思います。

(鴨川市 40 代女性 公務員・団体職員)

○ 東日本大震災から月日が流れ、防災の意識が薄れている中、定期的に防災に関する意識を再確認する必要があると感じました。(鴨川市 40 代女性 公務員・団体職員)

○ いろいろなお話を聞く中で、知っていることで守れる命について勉強になりました。(鴨川市 50 代女性 公務員・団体職員)

○ 被災地の女性ならではの、デリケートな部分の大変さがよくわかりました。テレビで放送されないショッキングな事件には驚きました。(鴨川市 50 代女性 パート・アルバイト)

○ 日本国内で起きていることなのに、知らないことが多く、反省させられました。被災地の現状をまず知ることから、次の問題解決へとつながると思います。情報公開の必要性を切に感じました。(鴨川市 60 代女性 専業主婦)

○ 家具が散らばるところを見て、地震は怖いと改めて思いました。私は小学生だけど分かりやすく良かったです。(富津市 10 代女性 学生)

○ 男性も多く聴講されていて、とても良かったのではないかと思います。報道されない避難所の実態を多くの人を知る機会となって良かったです。他人任せの防災から、自分の命は自分で守る防災に、気持ちを切り替える必要があると思いました。(富津市 40 代女性 公務員・団体職員)

○ 防災だけでなく防犯にも意識を向けることの必要性を痛感しました。(鴨川市 50 代男性 公務員・団体職員)

○ 女性の視点に立った現場主体の意見が大変役に立ちました。今まで知らなかった情報も多く、考え直すきっかけになりました。(鴨川市 70 代以上 男性)

○ 「災害時防犯」。初めて聞いた言葉でした。今後の防災対策の考え方が変わりました。(鋸南町 50 代男性 自営業)

< アンケートにご協力ください >

H25・9・28

本日はお忙しい中、男女共同参画セミナーにご参加いただき、ありがとうございました。
今後の参考のために、皆様のご意見等をどうぞお聞かせください。
(該当するものに○を付けてください。)

Q 1 お住まい

- 1 . 鴨川市 2 . 館山市 3 . 木更津市 4 . 君津市 5 . 富津市
6 . 袖ヶ浦市 7 . 南房総市 8 . 鋸南町 9 . その他()

Q 2 性別

- 1 . 女性 2 . 男性

Q 3 年齢

- 1 . 10代 2 . 20代 3 . 30代 4 . 40代 5 . 50代
6 . 60代 7 . 70代以上

Q 4 職業等をお聞かせください。

- 1 . 会社員 2 . 自営業 3 . 公務員・団体職員 4 . パート・アルバイト
5 . 専業主婦・主夫 6 . 学生・生徒 7 . 無職 8 . その他()

Q 5 このセミナーを何で知りましたか。(複数回答可)

- 1 . 市・町の広報誌 2 . チラシ 3 . 新聞 4 . ポスター 5 . インターネット
6 . 友人・知人 7 . その他()

Q 6 本日のセミナーの内容はいかがでしたか。

- 1 . 大変良かった 2 . 良かった 3 . あまり良くなかった 4 . 良くなかった

Q 7 防災・災害復興対策に、女性の視点で配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。(複数回答可)

- 1 . 女性や子育てに配慮した避難所の設計 2 . 避難所で提供する女性ならではの物資の充実
3 . 女性専用の相談窓口の設置 4 . 女性のニーズを反映した避難所の運営体制
5 . 妊婦等への配慮 6 . その他()
7 . 特にない 8 . わからない

裏面へ続く

Q8 次の言葉を知っていますか。知っている言葉に○をつけてください。

〈複数回答可〉

1. 男女共同参画社会
2. ワーク・ライフ・バランス
3. DV(ドメスティック・バイオレンス)
4. 固定的性別役割分担
5. ジェンダー(社会的性別)
6. カジダン・イクメン
7. ダイバーシティ

用語解説

- ① **男女共同参画社会**：男女が、社会の構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を得ることができ、かつ、共に責任を担う社会
- ② **ワーク・ライフ・バランス〈仕事と生活の調和の実現〉**：一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、人生の各段階に応じた多様な生き方が選択できる社会
- ③ **DV**：配偶者や元配偶者、恋人等親密な関係にある者からの暴力
- ④ **固定的性別役割分担**：男性、女性という性別を理由として役割を固定的に分けること
- ⑤ **ジェンダー(社会的性別)**：社会によって作り上げられた「男性像」「女性像」による男性、女性の別
- ⑥ **カジダン**：家事に積極的な男性 **イクメン**：育児を楽しむ男性
- ⑦ **ダイバーシティ**：直訳すると「多様性」のことで、幅広く性質の異なるさまざまな違いを尊重して受け入れ、「違い」を積極的に活かすこと

Q9 「男女共同参画」に関するセミナーで今後取り上げてほしいテーマはありますか。(複数回答可)

1. 男女共同参画社会
2. DV(ドメスティック・バイオレンス)
3. デートDV
4. ワーク・ライフ・バランス
5. 子育て
6. 介護
7. ポジティブ・アクション(積極的改善措置)
8. 就職支援
9. 防災
10. その他()

Q10 千葉県が推進する男女共同参画地域推進員制度について、ご存知でしたか？

1. 知っていた
2. 知らなかった

Q11 今日のセミナーを聞いて、感じたことや思ったことを自由にお書きください。

[]

ご協力ありがとうございました。

